

平成25年度第1回尾張旭市健康推進委員会 議事録〔要旨〕

【開催日時】

平成26年1月24日（金）

開会 午前13時30分

閉会 午前14時50分

【開催場所】

尾張旭市役所 保健福祉センター2階 201・202 会議室

【出席委員：11名】

日比野 清康（瀬戸旭医師会）

柴田 浩二（尾張旭市歯科医師会）

加藤 富士子（尾張旭市薬剤師会）

斎藤 征夫（名古屋経済大学）

村瀬 利治（尾張旭市自治連合協議会）

西山 妙子（尾張旭市地域婦人団体連絡協議会）

瀬瀬 陽子（尾張旭市健康づくり食生活改善協議会）

三浦 雅子（愛知県健康づくりリーダー連絡協議会瀬戸支部）

鵜飼 佳代子（瀬戸保健所）

青木 峯子（公募構成員）

浅野 憲治（公募構成員）

【欠席委員：3名】

宮田 敬三（旭労災病院）

森田 敬一（公立陶生病院）

吉田 与十六（尾張旭市体育協会）

【傍聴者数】

なし

【出席した事務局職員】

吉田健康福祉部次長、竹内健康課長、長嶋健康課長補佐、稲垣健康課庶務係長、磯村健康課副主幹

【会議の概要】

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 自己紹介
- 4 委員長、副委員長の選出
- 5 議題
- 6 その他

1 開会

<欠席委員の確認、会議の公開についての報告>

2 あいさつ

(健康福祉部次長)

昨年10月に委員の改選があつてから初めての会議になる。幅広い立場の方にお集まり頂き、感謝する。これまで、健康都市宣言、健康の日の制定をはじめとし、各健康づくりの事業について、審議、助言、評価などをお願いしてきた。事務局としても、委員会の存在は非常に頼もしく、勇気づけられる存在として頼りにしてきた。時には厳しい意見も頂けるので、とてもありがたく感じている。本委員会の任期中に中心となる議題は「尾張旭市健康あさひ21計画」の関係である。本計画は平成16年、市民の皆様が健康で長生きができ、活力のある日々を過ごせるように、その指針として策定したものである。平成17年度から平成26年度までの10年間の計画であるが、来年度には計画の満期となるため、新たな計画を策定していくために、現在の計画を最終評価し、来年度は平成27年度から始まる第2期の新たな計画を策定していくことになるので宜しくお願いしたい。

3 自己紹介

<各委員、一人ひとり自己紹介>

4 委員長・副委員長の選出

<互選により、委員長に日比野清康委員、副委員長に柴田浩二委員が決定した。>

5 議題

(1) 健康あさひ21計画について

<事務局より資料に基づき説明>

(委員長)

今後の健康あさひ21計画策定スケジュールをはじめ、内容全般について質問はあるか。

(事務局)

平成16年度から始まった現在の計画は国の指針に従って策定されたものであるが、項目が多く、総花的になった。次の計画は、これまで進めてきた中で浮き彫りになった課題を整理し、新たな計画に反映させていく方向であると思う。平成16年度からの動きをおさらいすると、最初は「健康を、市民の皆さんともう一度考え直そう」そして「生活を見直そう」というような“行動変容”を推進してきたが、最近スタンスが変わってきた。新たに大きな問題として、医療費の増大が出てきた。また、健康寿命も市民にとって大事である。尾張旭市は早くからこの問題について取り組んできた。ただ長生きをするためではなく、できるだけ長く健康的に生活できる寿命を延ばしていこう、という動きが本市においては特徴的だと思っている。平成16年からの10年の間には、このような大きな潮流の変化もあった。

(委員長)

現在の計画の最終評価は、報告書という形で出されるのか。

(事務局)

中間報告の時の計画書と比べると、冊子自体はもっと薄いものになる。最終評価結果を報告書として、およそ 30～40 ページでまとめていく。

(委員長)

これまで関わってきた皆さんも幅広い分野で様々な努力をされているので、最終評価では良い結果が出ると期待している。

(2) 最終評価に向けた取り組み状況と今後のスケジュールについて

<事務局より資料に基づき説明>

(委員長)

ただいまの説明について何かご意見等はないか。

(A委員)

アンケート結果はわかるが、重点目標の評価結果は何をもってこの結果なのか。

(事務局)

こちらアンケートによる結果である。これまで3度のアンケート調査を実施し、それに基づいて数値を確認してきた。同じ設問内容で継続してアンケートをとることで数値の推移が見えてくる。

(A委員)

平成26年度実施の最終報告書に関するアンケート調査においても、これまでと同じ設問内容のアンケートなのか。

(事務局)

経年でみるために、基本的には同じ項目である。

(A委員)

中学生が飲酒したことがあるか、という質問もあったと思うが、数字として正しいものがでてくるか疑問である。正直に書くだろうか。

(事務局)

完全に無記名による調査である。学校の先生に依頼をかけているのだが、回収用の封筒を準備するなど、誰が回答したかわからないように配慮している。

(委員長)

小中校生のアンケート回収率はとても高い。一番少ないのは17歳である。市民に関してはどのように抽出したのか。

(事務局)

20代から70代まで、年代別に分けて無作為に抽出している。

(委員長)

次回、統計的な数字をみれば、きっと面白い結果がでてくるのではないだろうか。

(A委員)

改善がみられた数値についてだが、改善は市の健康施策による改善なのか、それとも市民の健康に対する意識向上による結果なのか、どのような認識か。一般的にテレビやラジオ、新聞などでは、健康意識の向上を促す内容がみられるが、尾張旭市からの健康に関する様々な活動につい

ては、普段の生活を送るうえで、なかなか聞こえてこないが。

(委員長)

A委員からの質問は、市の健康意識向上に関する啓蒙活動はどの程度効果があったのか、という話になると思うが、市の見解はどうか。

(事務局)

健康課では、他の自治体と比べても生活習慣病の予防などの取組みで多岐に渡った活動をしている。ただ、市民全体に対しての活動は相当大きなスケールになるので、我々の活動だけでは市民の健康状態向上までには至らない、という意見もある。逆に、我々の活動で健康状態を改善し、今では自らも健康意識を向上させる活動の担い手となっている市民の例もある。また「筋力トレーニング」として各地区で高齢者を中心に1,000名以上の市民が登録参加している事業があり、筋トレを通じて筋力をつけるだけでなく、生活習慣病予防のための意識を市民が持てるように取り組んでいる。しかし、我々の取組みが市全体の8万2千人を健康にしているか、とみると、そこまでの威力はない。取り組んでいる市民とそうでない市民との間に生まれる「健康格差」が、現在の大きな課題のひとつである。健康に意識が向いていない市民に働きかけていくのは簡単ではない。施策を進めていくなかで、尾張旭市民が健康を意識する取組みを続けていくことが大事である。意識向上のためにアンケートを実施し、分析し、全体を底上げできれば、というのが計画策定のポイントである。他に、がん検診などにも力を入れている。しかし、我々の取組みによって市民全体の健康を底上げできたか、という点では「効果があった」と自信をもって示すことが出来るまでには至っていないのが現状である。

(A委員)

市の取組みや、個人や団体が健康に関してどのような活動を展開しているのか、という点では、尾張旭市に住む私のような一般市民には情報が入ってこない。

(事務局)

貴重なご意見である。直近のアンケートによれば、健康都市をめざしていることを知っている市民は60%程度であった。市民全員に知れわたっている状況ではない。よって、平成27年度からの計画では、まだこの活動を知らない市民の方にどう情報を伝えるか、どのような啓発、広報活動を行えば情報が伝わるのか、ご意見を頂きながら策定したいと考えている。

(委員長)

これまでのやり取りをみていると、啓発活動は大事であると改めて感じる。

(事務局)

市が行う広報活動には限界があり、市民一人ひとりの口コミなどによる情報の伝達なども今後は活用しなければならないと思っている。

(B委員)

地域の活動に関して、我々は旭ヶ丘連合自治会でラジオ体操やふれあいスポーツ活動を実施している。昨年12月8日には外部講師を招いて、寝たきりにならないための講習会を開催した。講習会参加者はおよそ200人であった。講習会は、健康あさひ21計画をもとに計画・実施している。現実に、市の計画が基盤となって市民活動が取り組まれている例もある。

(事務局)

旭ヶ丘地区は、講習会をはじめとして、他にも様々な活動をされているモデルである。

(B委員)

寝たきり防止に筋力トレーニングは最適である。

(委員長)

診療をやっていると、健康に関心がない人に有効な表現がある。シミになる、美容に悪い、骨が弱くなって骨折しやすくなり、骨折をきっかけに寝たきりになる、認知症になる、などである。コレステロール値が高いことはとても危険なことであり、放置すると動脈硬化になり、認知症を引き起こす危険がある、とも伝えている。これらの表現は、普段から健康を意識していない市民が、健康づくりに取り組むための動機づけをする際に効果的な情報である。

(C委員)

健康あさひ21計画は、情報が多岐に渡っている。しかし、情報が多すぎるために、市民が手に取ってみる計画書になっていない。これまでの計画書をみると、特筆すべき情報が載っている。例えば尾張旭市は老年人口が少なく、平均寿命が長い。非常に素晴らしい結果である。死亡率については悪性新生物や脳血管疾患、心臓疾患、いずれも愛知県や全国に比べて少ない。原因をみていくと、市民は運動習慣者が多く、肥満者が少ない、という統計がでていいる。健康活動によって実際に成果が上がっていると言える。これらの情報を市として、少しずつ広報に載せる工夫をして、市民へ伝えていくべきではないか。報告書というかたちで、一度に多すぎる情報を載せるのではなく、情報を小出しにするのはどうか。

(事務局)

貴重な意見を頂いた。

(A委員)

市の広報は年に24回あると思うので、少しずつ解説をしてくれたらよい。

(事務局)

最終評価の結果報告が出る段階で、市民の皆さんへ何らかの形で結果をお伝えしていくことを考えている。

(委員長)

わかりやすい結果表示と、わかりやすい表現を使って、情報提供をお願いしたい。他に意見はあるか。

(A委員)

アンケート結果は調査ごとに回収率が異なっており、うまく比較ができるのだろうか。

(事務局)

それぞれの調査ごとに設問項目が違っているため、影響はない。

(D委員)

一市民として、尾張旭市は活気があるまちだと感じる。認知症になる原因は1つや2つではない。ひきこもりの高齢者が出たくなるような、刺激的な事業ができるかどうか重要である。そのような人たちが外にでてこられるような魅力的な催事があればよい。高齢者の普段の生活にはもっと多くの刺激が必要であると感じている。

(委員長)

特に独居高齢者や、高齢者のみの世帯など、社会に参画しにくい立場の市民に向けての施策はどのような状況か。

(事務局)

健康問題だけでは収まらず、高齢者の問題とも重なってくる。健康課としての取り組みとして、筋力トレーニングがある。市民へは、友人・知人、ご近所など、できるだけ声を掛け合って参加するように呼びかけている。地区によっては筋力トレーニングの参加者が右肩上がりになってい

る。他に魅力的な事業について、この委員会などでご提案を頂ければと思う。

(委員長)

認知症予防は健康課だけの話ではなく、高齢者福祉にも関わる問題である。予防はとても大きな課題だ。社会参画していない高齢者の認知症の進行は早い。デイサービスに通いだして認知症が改善された例がたくさんあると聞く。これまでの計画では認知症の記載が少なかったが、今後の策定にむけて、認知症について大きくとりあげることを提案したい。

(事務局)

認知症に関しては、健康課で「あたまの元気まる」という取り組みを始めた。これは、自分が認知症になりかけかどうか、黄色信号かどうか分かる、脳のチェックテストである。認知症予防のことは老健局の管轄であり、健康課には情報がないので手さぐり状態で進めた。認知症と生活習慣は切っても切れない関係であり、生活習慣を正せば認知症が改善される。健康課としては、この2つを切り離すのではなく、相関関係にあるものとして、「あたまの元気まる」などを通じて包括的な取り組みをしていきたい。

(E委員)

次世代育成計画に関わっていた頃、冊子に活動内容などがわかりやすく示されていた。それに比べると健康あさひ21計画は行政の具体的な取り組み内容が見えにくい。市民の生活に近い、わかりやすい情報などを掲載していくことで、活動がより身近になっていくのではないだろうか。

(F委員)

これまで健康計画に携わった経験を言うと、健康に関する計画づくりは健康課だけで行うべきではないと考えている。これまでの議論にも出てきたが、高齢者、子ども、公園など、様々な分野の関係者が同じ立場で健康の計画書に関わってくことでより良いものができていくのではないか。縦割りになりがちな行政のやりかたではなく、他の分野の関係者と協力しながら進めていく事はできないだろうか。

(委員長)

F委員としては、横のつながりをつくって連携を強化してほしいという事であるが、事務局としてはどうか。

(事務局)

とても貴重な意見である。次は横の連携を強化していく段階だと思う。

6 その他

(事務局)

今回は、3月14日に第2回会議を開催する予定である。委員の皆さんのご意見を宜しく願いたい。

閉 会